

March

日	月	火	水	木	金	土
						1 子 陶芸
2 料理教室	3	4 赤 陶芸	5	6	7	8 子 陶芸
9 英 カレドシネマ	10	11 赤 陶芸	12	13	14	15 子 旬の料理教室
16 子	17	18 赤 陶芸	19	20	21	22 子 陶芸
23 子 かがく実験教室	24	25 赤 陶芸	26	27	28	29 市民歴史講座
30	31					

＊おはなし会情報＊

会場：おはなし会コーナー(パオ)
時間：10:30～11:00
参加無料・申込不要

赤 あかちゃんおはなし会
 ＊第1火曜日
 ＊第2火曜日(隔月開催)
 ＊第3火曜日

子 こどもおはなし会
 ＊毎週土曜日
 ＊第3日曜日
 ＊第4日曜日(隔月開催)

英 えいごのおはなし会
 ＊第2日曜日


図書館展示情報

一般展示 毎日が記念日

毎朝、車のエンジンをかけると「今日は〇〇の日です。」とカーナビがおしえてくれます。「へえ～！そんな記念日のあるんだ！」と知らないものが多々・・・。

3月といえば、ひな祭りやホワイトデーなどを思い浮かべる方が多いと思いますが、実は毎日が何かの記念日です。

そこで、今月は3月1日から3月31日までの「今日はなんの日？」にちなんだ本を集めてみました。「毎日が記念日」だなんて、なんだかワクワクしませんか？！



このほか館内の様々な場所でも展示をしています。ぜひこの機会にお立ち寄りいただき、色々な本と出会ってください！


児童展示 ともだちっていいな

いっしょにあそんだり、けんかしたり、はげましあったり……ともだちっていいなとおもえるようなほんをあつめました。


ともだちってなんだろう？ どうしたらともだちになれるの？ ほんのなかにいる、いろんなともだちにきてみましょう。

YA展示 教科書を楽しむ

国語の教科書は好きですか？教科書には心惹かれる物語がいっぱい。これまでに習った懐かしいお話、これから習う未知のお話……。教科書に載っていなかった気になる場面まで存分にお楽しみください！



1X(旧Twitter)



1Facebook

3月 カレドイベント情報！

カレドシネマ 『エクス・マキナ』

日時／3月9日⑥
開場：13:00
開始：13:30～16:00 ブックトーク、その後上映会
会場／研修室・会議室 定員／50名(当日先着順)
対象／どなたでも 時間／108分 製作／2014年

人間と人工知能の主従関係を巡る心理戦を斬新なビジュアルで描き、第88回アカデミー賞で視聴効果賞に輝いたSFスリラー。世界最大のインターネット会社のプログラマーのケイレブは、普段は滅多に姿を現さない社長のネイサンが所有する山間の別荘に1週間滞在するチャンスを得る。人里離れた別荘を訪れた彼女を待っていたのは美しい女性型ロボットのエヴァだった。ケイレブは、エヴァに搭載された世界初の実用レベルとなる人工知能のテストに協力することになる。

市民歴史講座 「台湾で活躍した野々市人 植物学者 小西成章」


日時／3月29日⑤ 14時～15時30分
場所／研修室・会議室
定員／30名
対象／一般(大人)
参加費／無料
申し込み／ご来館もしくはお電話で申し込み。

小西氏は、金沢生まれの野々市育ちの人物です。明治時代の台湾へ林学士として渡り、林業の整備や自然保護などに尽力しました。台湾の森林地区は原住民族の人たちが住む場所であり、彼らと親密な関係を結び調査を行っていました。

2月 イベント報告

カレドステージ VOL.2 「人生の最期に最高の一冊を」を公演しました。

2/22⑤にカレドステージVOL.2「人生の最期に最高の一冊を」を公演しました。大好評に終わりましたこちらの公演、ぜひ次回もお楽しみに！



マンガカレンちゃんついに始動！

第一話は「返却ポストにゆっくり入れてね★」返却ポストのところに掲示しているので、ぜひ、ご覧ください！
気になる返却本の確認作業については、またいつか明らかになるかも…!?



今月のおすすめ本 『ヘルシンキ 生活の練習』

著者：朴 沙羅 出版社：筑摩書房 分類ラベル：369.4

北欧フィンランド、近年注目されている国の一つではないでしょうか。今回ご紹介する本はフィンランドに幼い子供2人と移住した社会学者による現地生活のレポートです。現在のフィンランドの制度について、それを構築してきた人々の価値観に触れながら日本と真逆ともいえる発想に驚きつつ違いを楽しんでいる著者の生活が窺えます。一つ例にあげるとフィンランドの保育園では行事がなく小学校も入学式すらないそうです。また小学1年生は遊びが主な活動で勉強は文字の読み方、数字の書き方程度しか習わないとか。そこには「子どもが望まない技術を身に付けさせるのは大人の自己満足」「六歳や七歳の子どもを長時間座らせて一方的に教え込むのは害のほうが大きい」という教育観があります。確かに行事によって学びの成果は可視化されます。しかしそこを重視せず、また、その時期必要なスキルは勉強だけではなく遊びや生活の練習であるという実利主義が非常にフィンランドらしいと感じます。他にも保育園で朝ごはんが出たり地方議員の報酬がゼロだったり、本当に？という制度がいくつも登場します。日本との様々な違いに驚きつつ、隣国で戦争が勃発しても今なお世界の幸福度ランキング1位であり続けるこの国について興味はつきません。

こちらの本は、カレドと中央公民館に1冊ずつ所蔵しています。